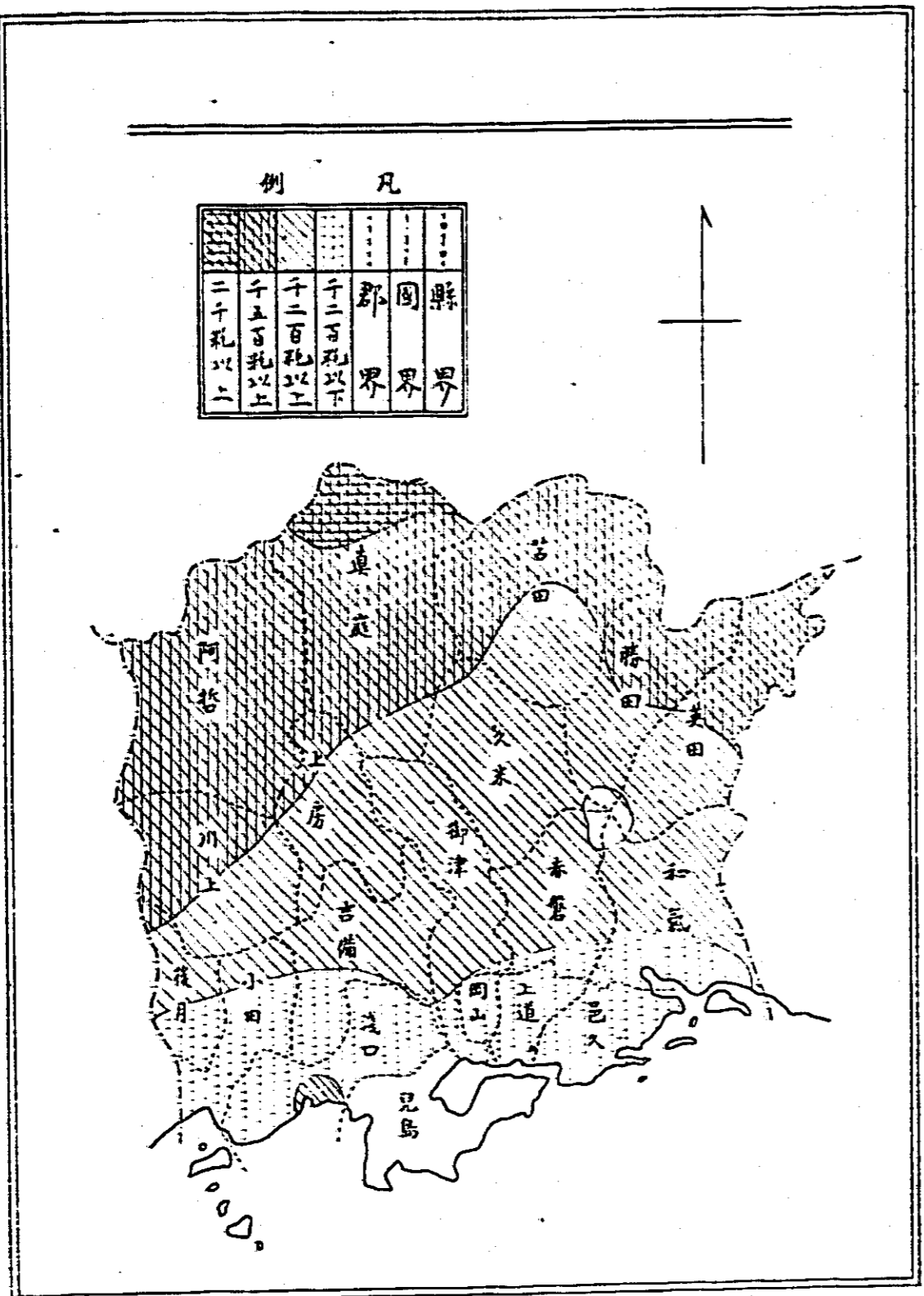


之れに次ぐのは眞庭地方の一五三六九四であつて、最低は兒島郡地方の一〇八三〇九である、即ち山岳地方に高く、沿海地方に低いこと、恰かも温度のそれと相似た點がある、縣下全體としては別表に示す通り全國中海面上の高さの各々異りたる各地方と對比すると、決して雨量の多い方ではなく寧ろ降水量に於ては全國中最も低き方に屬するものと認むることが出来る。

十ヶ年年別平均降水量

	大正五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	全年
岡山市	一、〇九二・四	九六七・八	一、二九六・六	一、一三三・二	一、一七三・三	一、三九〇・〇	一、〇〇五・〇	一、六六〇・二	六九二・八	一、一〇七・四	一、四三三・五
和氣郡和氣	一、〇〇〇・三	一、一〇三・四	一、五六二・八	一、〇八四・九	一、三四四・〇	一、四三三・七	一、〇五八・二	一、六一四・四	八四八・〇	一、〇七四・四	一、三三三・四
兒島郡味野	八〇〇・七	八八九・七	一、三三三・六	一、〇五二・三	一、〇〇三・七	一、三三三・四	一、〇三三・六	一、六二二・九	六八七・四	八五三・五	一、〇六七・八
淺口郡玉島	一、〇〇〇・三	九九八・六	一、三七〇・三	一、三九九・二	一、三三〇・二	一、四四六・五	一、〇八九・八	一、六一〇・〇	七三九・六	九四八・六	一、二二一・八
小田郡笠岡	九四二・二	八四三・八	一、四〇九・九	一、一五三・四	一、三三三・八	一、二六三・三	一、〇六六・八	一、六五三・三	六九六・六	八二一・二	一、〇八三・〇
上房郡高梁	一、〇九〇・三	一、一三三・六	一、四八三・二	一、四〇〇・八	一、三六六・三	一、四六二・二	一、三三三・七	一、八七三・五	八三三・六	一、一〇四・三	一、三、〇〇七・三
阿哲郡新見	一、三三三・三	一、〇〇〇・一	一、七三三・三	一、四六四・四	一、五〇六・四	一、七六三・三	一、三九四・三	二、〇〇〇・三	一、〇六二・一	一、四四六・四	一、五、四二七・七
眞庭郡勝山	一、六四〇・六	一、四〇〇・六	一、五六四・三	一、三六六・七	一、六二六・七	一、七二四・七	一、三九六・二	二、三三九・二	一、〇〇六・〇	一、三九〇・七	一、五、三六九・四
苫田郡津山	一、五六九・五	一、三三三・八	一、五九三・四	一、三三八・四	一、二八一・七	一、六四三・二	一、三三六・九	一、九三九・六	八九一・三	一、一八六・七	一、三、九四四・四



降水量

宮崎縣	西諸縣	高知縣	島根縣	岡山縣	長野縣	新潟縣	山形縣	青森縣	北緯	緯度	經度	海面上ノ高さ	降水量
西諸縣	高知縣	島根縣	岡山縣	長野縣	新潟縣	山形縣	青森縣	津輕郡	33.66	33.33	131.01	200	1,014.5
高知縣	島根縣	岡山縣	長野縣	新潟縣	山形縣	青森縣	津輕郡	關村(碓氷關)	33.33	33.00	131.35	467	1,186.9
島根縣	岡山縣	長野縣	新潟縣	山形縣	青森縣	津輕郡	關村(碓氷關)		33.00	32.67	131.69	300	1,016.9
岡山縣	長野縣	新潟縣	山形縣	青森縣	津輕郡	關村(碓氷關)			32.67	32.33	132.03	300	1,019.9
長野縣	新潟縣	山形縣	青森縣	津輕郡	關村(碓氷關)				32.33	32.00	132.37	300	1,022.9
新潟縣	山形縣	青森縣	津輕郡	關村(碓氷關)					32.00	31.67	132.71	300	1,025.9
山形縣	青森縣	津輕郡	關村(碓氷關)						31.67	31.33	133.05	300	1,028.9
青森縣	津輕郡	關村(碓氷關)							31.33	31.00	133.39	300	1,031.9
津輕郡	關村(碓氷關)								31.00	30.67	133.73	300	1,034.9
關村(碓氷關)									30.67	30.33	134.07	300	1,037.9
									30.33	30.00	134.41	300	1,040.9
									30.00	29.67	134.75	300	1,043.9
									29.67	29.33	135.09	300	1,046.9
									29.33	29.00	135.43	300	1,049.9
									29.00	28.67	135.77	300	1,052.9
									28.67	28.33	136.11	300	1,055.9
									28.33	28.00	136.45	300	1,058.9
									28.00	27.67	136.79	300	1,061.9
									27.67	27.33	137.13	300	1,064.9
									27.33	27.00	137.47	300	1,067.9
									27.00	26.67	137.81	300	1,070.9
									26.67	26.33	138.15	300	1,073.9
									26.33	26.00	138.49	300	1,076.9
									26.00	25.67	138.83	300	1,079.9
									25.67	25.33	139.17	300	1,082.9
									25.33	25.00	139.51	300	1,085.9
									25.00	24.67	139.85	300	1,088.9
									24.67	24.33	140.19	300	1,091.9
									24.33	24.00	140.53	300	1,094.9
									24.00	23.67	140.87	300	1,097.9
									23.67	23.33	141.21	300	1,100.9
									23.33	23.00	141.55	300	1,103.9
									23.00	22.67	141.89	300	1,106.9
									22.67	22.33	142.23	300	1,109.9
									22.33	22.00	142.57	300	1,112.9
									22.00	21.67	142.91	300	1,115.9
									21.67	21.33	143.25	300	1,118.9
									21.33	21.00	143.59	300	1,121.9
									21.00	20.67	143.93	300	1,124.9
									20.67	20.33	144.27	300	1,127.9
									20.33	20.00	144.61	300	1,130.9
									20.00	19.67	144.95	300	1,133.9
									19.67	19.33	145.29	300	1,136.9
									19.33	19.00	145.63	300	1,139.9
									19.00	18.67	145.97	300	1,142.9
									18.67	18.33	146.31	300	1,145.9
									18.33	18.00	146.65	300	1,148.9
									18.00	17.67	146.99	300	1,151.9
									17.67	17.33	147.33	300	1,154.9
									17.33	17.00	147.67	300	1,157.9
									17.00	16.67	148.01	300	1,160.9
									16.67	16.33	148.35	300	1,163.9
									16.33	16.00	148.69	300	1,166.9
									16.00	15.67	149.03	300	1,169.9
									15.67	15.33	149.37	300	1,172.9
									15.33	15.00	149.71	300	1,175.9
									15.00	14.67	150.05	300	1,178.9
									14.67	14.33	150.39	300	1,181.9
									14.33	14.00	150.73	300	1,184.9
									14.00	13.67	151.07	300	1,187.9
									13.67	13.33	151.41	300	1,190.9
									13.33	13.00	151.75	300	1,193.9
									13.00	12.67	152.09	300	1,196.9
									12.67	12.33	152.43	300	1,199.9
									12.33	12.00	152.77	300	1,202.9
									12.00	11.67	153.11	300	1,205.9
									11.67	11.33	153.45	300	1,208.9
									11.33	11.00	153.79	300	1,211.9
									11.00	10.67	154.13	300	1,214.9
									10.67	10.33	154.47	300	1,217.9
									10.33	10.00	154.81	300	1,220.9
									10.00	9.67	155.15	300	1,223.9
									9.67	9.33	155.49	300	1,226.9
									9.33	9.00	155.83	300	1,229.9
									9.00	8.67	156.17	300	1,232.9
									8.67	8.33	156.51	300	1,235.9
									8.33	8.00	156.85	300	1,238.9
									8.00	7.67	157.19	300	1,241.9
									7.67	7.33	157.53	300	1,244.9
									7.33	7.00	157.87	300	1,247.9
									7.00	6.67	158.21	300	1,250.9
									6.67	6.33	158.55	300	1,253.9
									6.33	6.00	158.89	300	1,256.9
									6.00	5.67	159.23	300	1,259.9
									5.67	5.33	159.57	300	1,262.9
									5.33	5.00	159.91	300	1,265.9
									5.00	4.67	160.25	300	1,268.9
									4.67	4.33	160.59	300	1,271.9
									4.33	4.00	160.93	300	1,274.9
									4.00	3.67	161.27	300	1,277.9
									3.67	3.33	161.61	300	1,280.9
									3.33	3.00	161.95	300	1,283.9
									3.00	2.67	162.29	300	1,286.9
									2.67	2.33	162.63	300	1,289.9
									2.33	2.00	162.97	300	1,292.9
									2.00	1.67	163.31	300	1,295.9
									1.67	1.33	163.65	300	1,298.9
									1.33	1.00	163.99	300	1,301.9
									1.00	0.67	164.33	300	1,304.9
									0.67	0.33	164.67	300	1,307.9
									0.33	0.00	165.01	300	1,310.9
									0.00		165.35	300	1,313.9

之れを要するに岡山縣はその要覽に於て、北部と南部との間に於て氣象學上截然たる差異の存することが窺はれる、即ち北部に於ては山岳多く連り、降水量多く、氣温甚だしく低く湿度は高く、之に反し南部に於ては地勢平坦若くは海に接し降水量少く、氣温高く、湿度比較的低く、全く縣下を別にしたるの感があるやうである。

二、一般的影響及其の全國對照

縣下に於ける大正五年より同十四年に至る過去十ヶ年間脚氣病死者に關し、之れを一般的に各種の方面から觀察すると大要次のやうであるが、茲に一言附け加へることは以下各項に現はれたる數字は今回特に調査して得たる數字であつて従つて全國統計表に現はれたる數字と一致せざることを豫め諒知されたいのである。

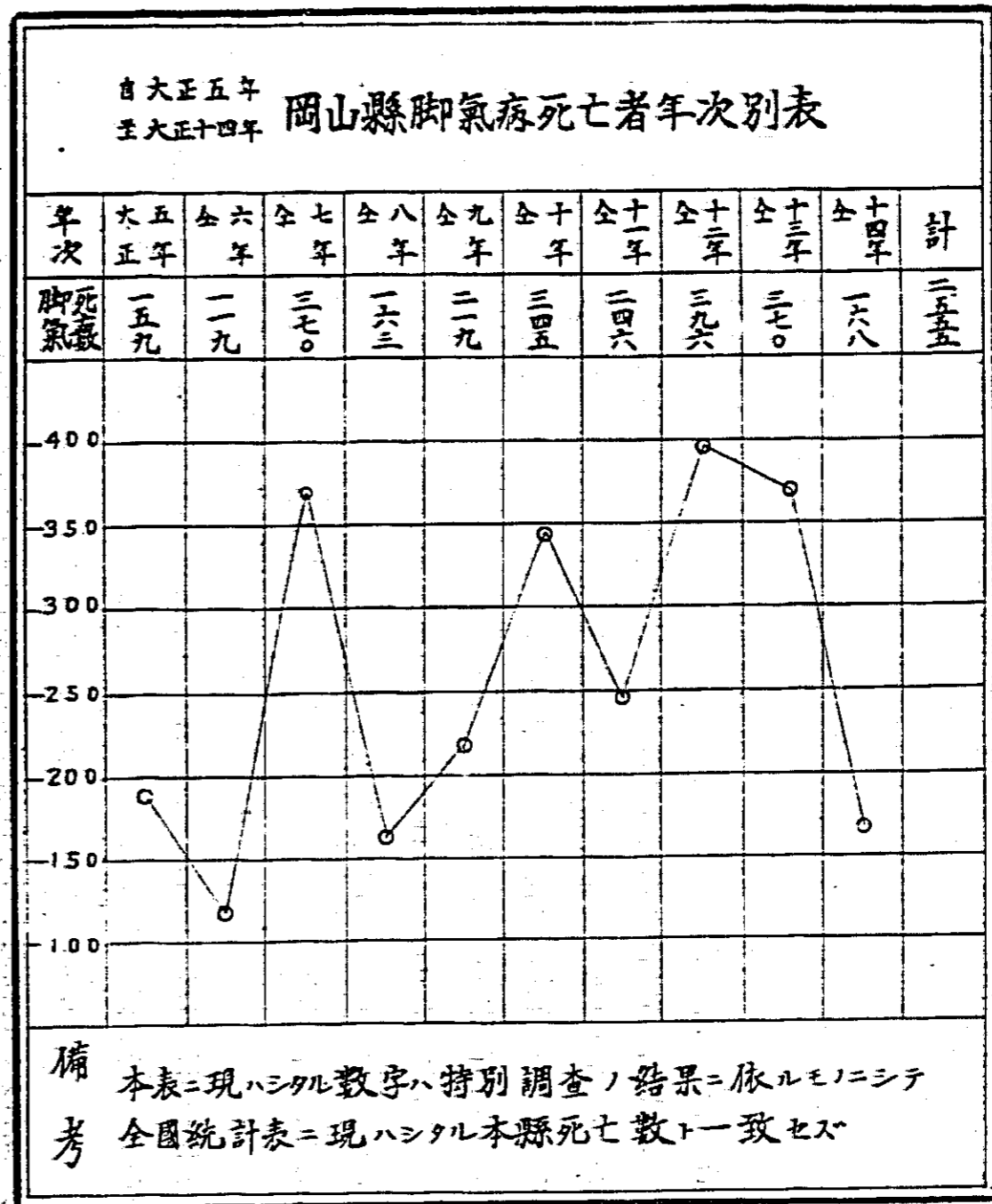
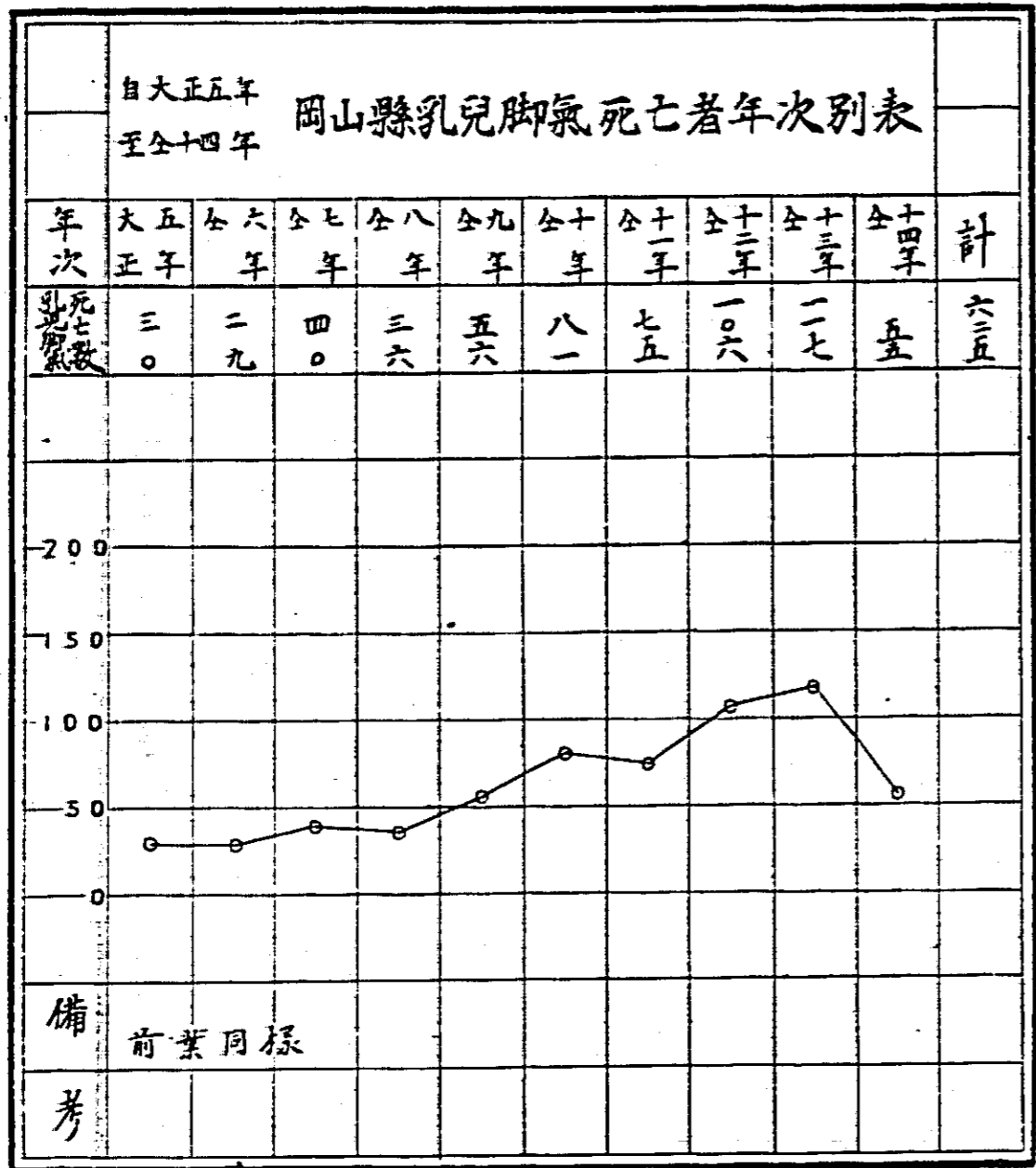
一、年別觀察

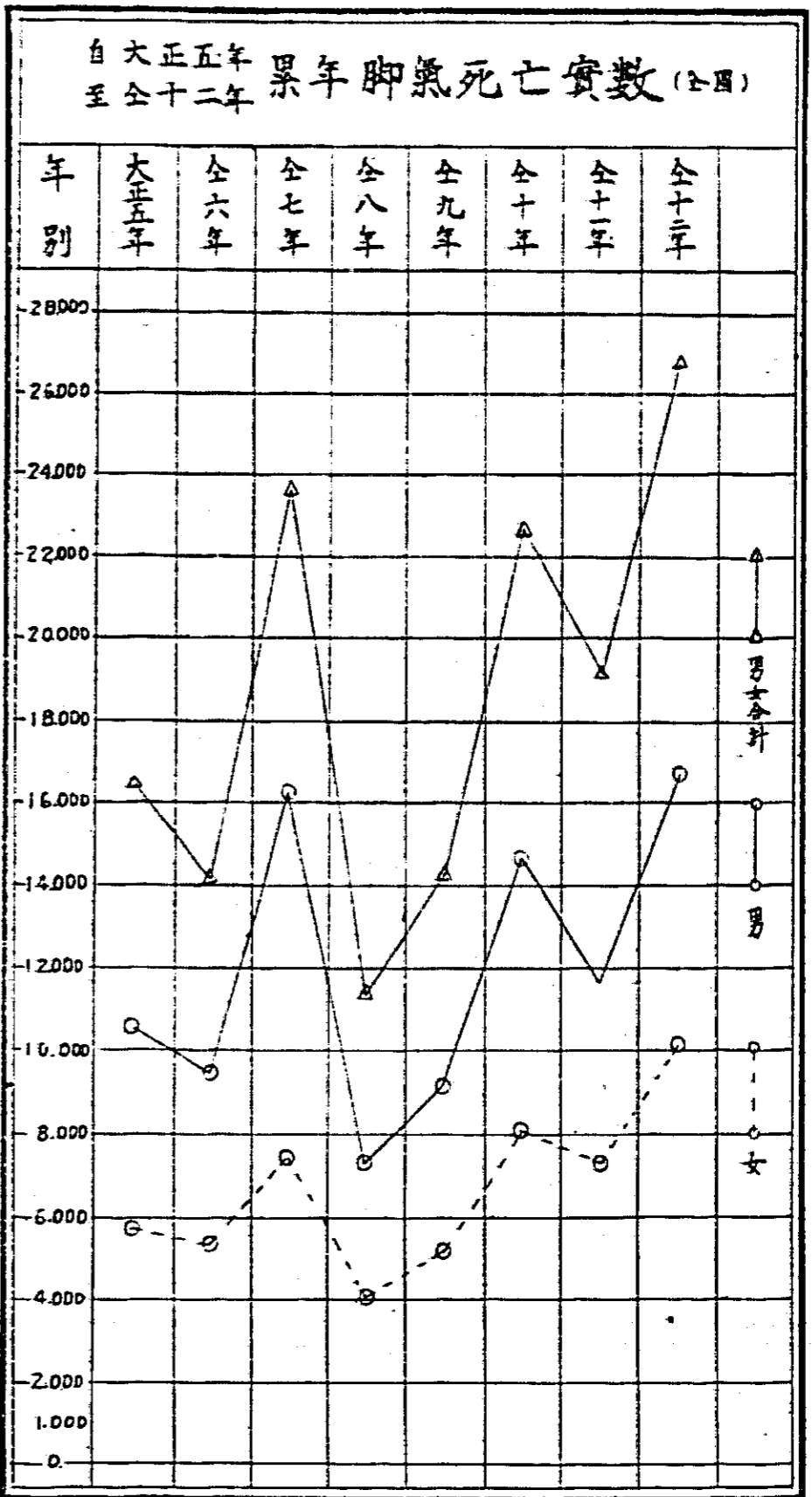
脚氣病に因る各年別死者數は別表に示す通りであつて、即ち大正五年より漸次其の死亡數を増し、大正五年に於て

は其の死亡者一五九人であつたのが、大正六年には一旦下降し再び大正七年に於て一躍三七〇人に至り、大正十年には三四五人を示し、大正十二年に於ては三九六人に達し、それより漸次下降してゐるのを見る。

之れを脚氣病死者中につき、更に乳兒脚氣のみに限りて觀察すると、矢張り略々同様の示線を呈するのを窺ふことが出来る、即ち大正五年に於ては其の數三〇人であつたのが大正十年には七五人となり、更に大正十三年に於ては一七七名を算し、これから漸次下降の狀態を示してゐる。

更に之れを年別の方面に付て全國的に觀察すれば次表に示す通りであつて矢張り極めて近似した型を示すのを見る、即ち大正五年には一六、四七六人であつたのが、大正六年に於ては一四、七九四人に下降し、大正七年に於ては二二、六三二人となり、大正十年に於ては二二、六七五人となり、大正十二年に於ては二六、七九六人を示し、大正十一年に於ては一旦減數を示すことに於て何れも一致してゐることが分る(十二年以降は未發表)、依之見れば脚氣病死者の消長(延びて其の患者發生數の消長を窺ふことを得るものとして)は何等かの要約の支配を受け年を異にし其の發生數に多少の差を示すものと考





累年脚氣死亡實數 (全國)

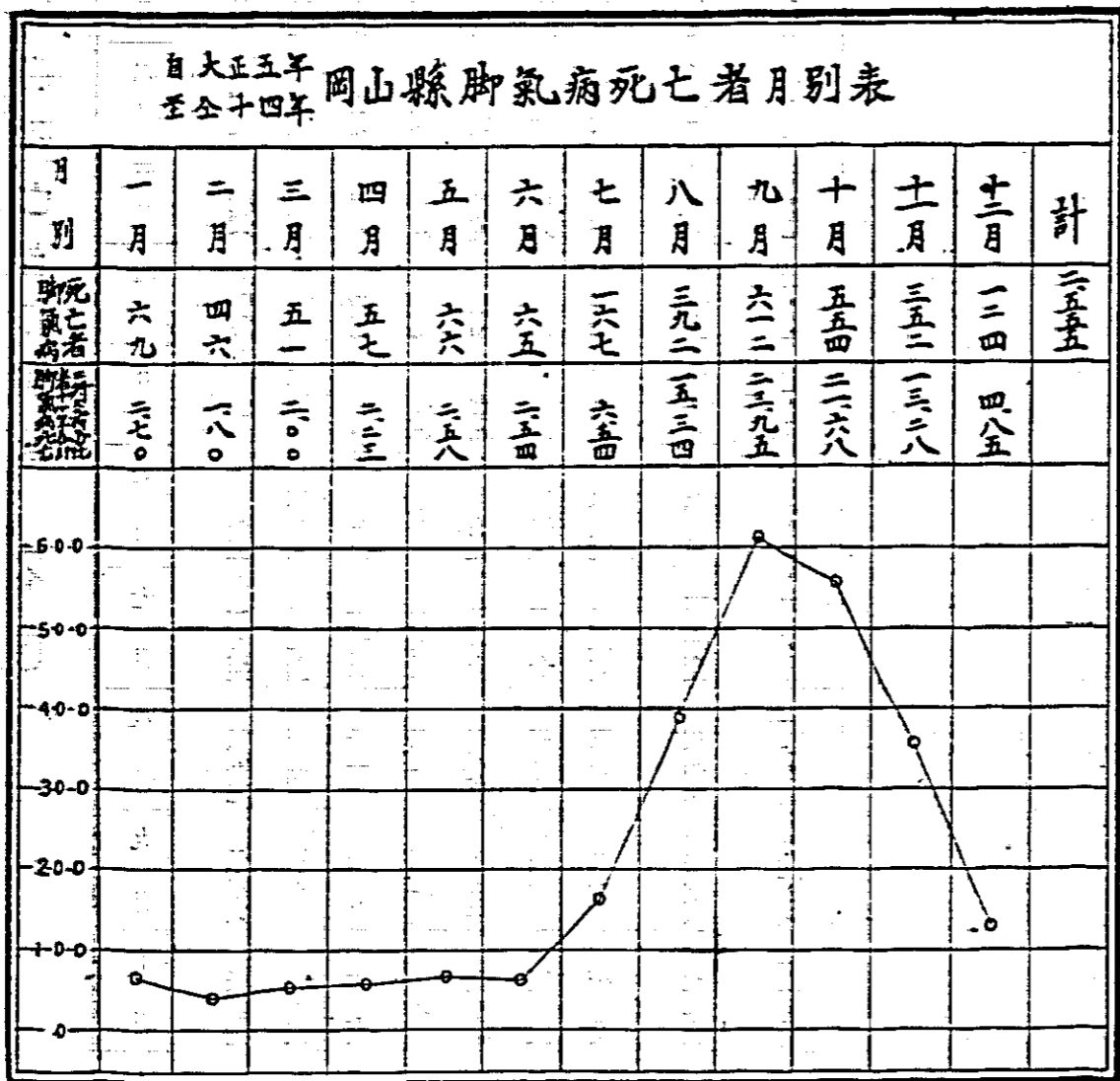
明治三十二年(一九一九)	脚氣死亡		計	明治四十五年(一九二四)	脚氣死亡		計
	男	女			男	女	
同 三十三年(一九〇〇)	六,九三三	二,〇三三	九,〇〇〇	同 二年(一九二二)	三,七〇〇	一,七五九	四,七五〇
同 三十四年(一九〇一)	五,一六六	一,六八八	六,八〇〇	同 三年(一九二三)	六,五三三	三,一五三	九,六八六
同 三十五年(一九〇二)	七,八二六	三,三二二	一一,〇九二	同 四年(一九二四)	七,四〇二	三,八三三	一一,二九三
同 三十六年(一九〇三)	七,七〇〇	三,〇八三	一〇,七八三	同 五年(一九二五)	一〇,七九三	五,六八一	一六,四七六
同 三十七年(一九〇四)	六,九三六	二,七三三	九,四八八	同 六年(一九二六)	九,四二二	五,三三三	一四,七九四
同 三十八年(一九〇五)	八,四四七	三,二六六	一一,七〇三	同 七年(一九二七)	一六,三三六	七,七〇六	二四,〇四二
同 三十九年(一九〇六)	五,〇〇〇	二,三六六	七,三六六	同 八年(一九二八)	七,三三三	四,〇〇六	一一,三三九
同 四十年(一九〇七)	六,一〇三	二,六三三	八,七三七	同 九年(一九二九)	九,一五三	五,〇八四	一四,二三三
同 四十一年(一九〇八)	七,四七三	三,三三三	一〇,八〇六	同 十年(一九三〇)	一四,六五〇	八,〇三三	二二,六八三
同 四十二年(一九〇九)	一〇,七六八	四,七〇七	一五,〇六五	同 十一年(一九三一)	一一,〇三〇	七,三三六	一八,三六六
同 四十三年(一九一〇)	六,〇〇〇	三,三三六	九,三三六	同 十二年(一九三二)	一六,七〇三	一〇,〇三四	二六,七三六
同 四十四年(一九一一)	三,一〇〇	三,〇六七	六,一六七				

一、二、月別觀察

大正五年より同十四年に至る十ヶ年間各月別に依る脚氣病死者数は別表に之れを示す通りであつて、此の期間に於ける總死亡數二、五五五人に付き一月より六月に至る六ヶ月間に於ては著るしき差を示して居らぬが、七月より順に其の數を増し八月に至りては一層其の數を激増し十ヶ年間脚氣總死亡の一五・三四%、其の實數三九二人に達し、九月に於て

は其の最も著しき増加を示し脚氣總死亡の二三・九五%、實數六一二人となり、之を最も多き月とし、十月に於ては稍々其の減退を現はし實數五五四人、其の比二一・六八%となり漸次示線の下降を示すものを見る。
 即ちこの波線に依つて窺ふこと、吾等の日常偶然認むるところの現象と相一致して冬季に少く初夏の候より其の數を増し晩夏初秋の候に於て其の脚氣病死者最も多きを知ることが出来る。

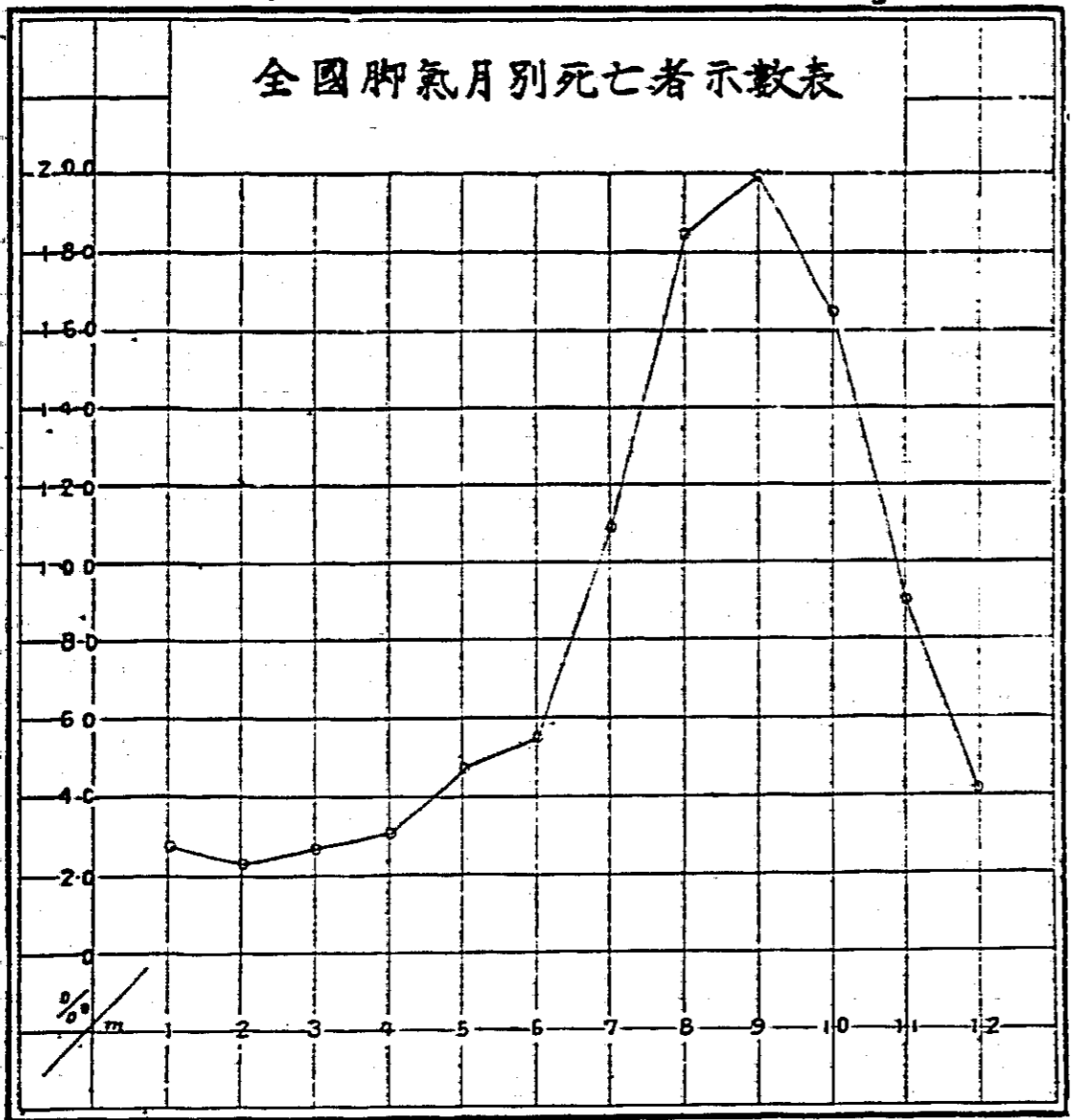
更に之れを全国的に觀察しても同様であることは別表に示す通りで、即ち大正六年より十二年に至る八ヶ年間千分比の觀察に於て一月から六月まで特に多發と認むべき點も無いが、七月に至つて急に一〇九・〇五となり更に八月に至り一八四・〇九となり九月に及びて一九九・四九となり其の最高を示し十月に至り稍々下降し一六四・〇七となり十一月に至るに及びて急に減數するのを見ること、の狀勢は本縣下に於ける其の波線と略々同一なることを見る。
 即ち夏季に於て一汎的に示數上多數の死者を發生し殊に九月に於て何れも其の著明なる高位を示すことを見る。

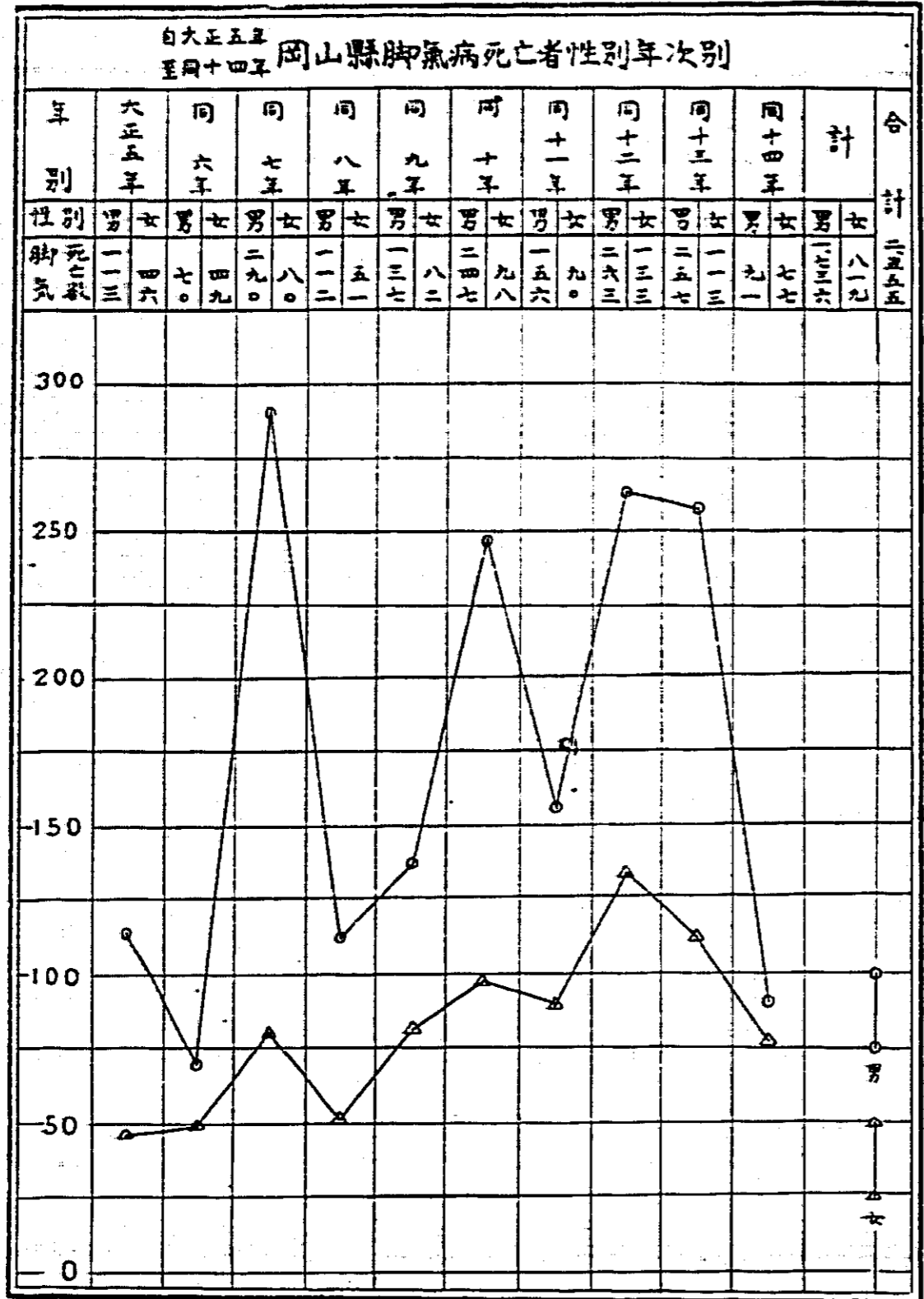


脚氣病死亡者月別表 (全國)

年別	月別	大正六年						計
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	
大正六年	一月	五四四	四一七	四四八	四八五	七二一	八三三	一四,七四四
	二月	四七九	四三九	四二九	四〇〇	一,五〇四	一,八三三	二,七四四
	三月	六四九	五三九	七一九	九〇〇	一,五〇四	一,八三三	三,五九七
	四月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
	五月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
	六月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
	七月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
	八月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
	九月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
	十月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
	十一月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
	十二月	五三九	五三九	四二九	四七七	五八二	七六四	四,〇〇二
計		五,四四四	四,四一七	四,四四八	四,四八五	五,七二一	六,八三三	五四,七四四

全國脚氣月別死亡者示數表





六五

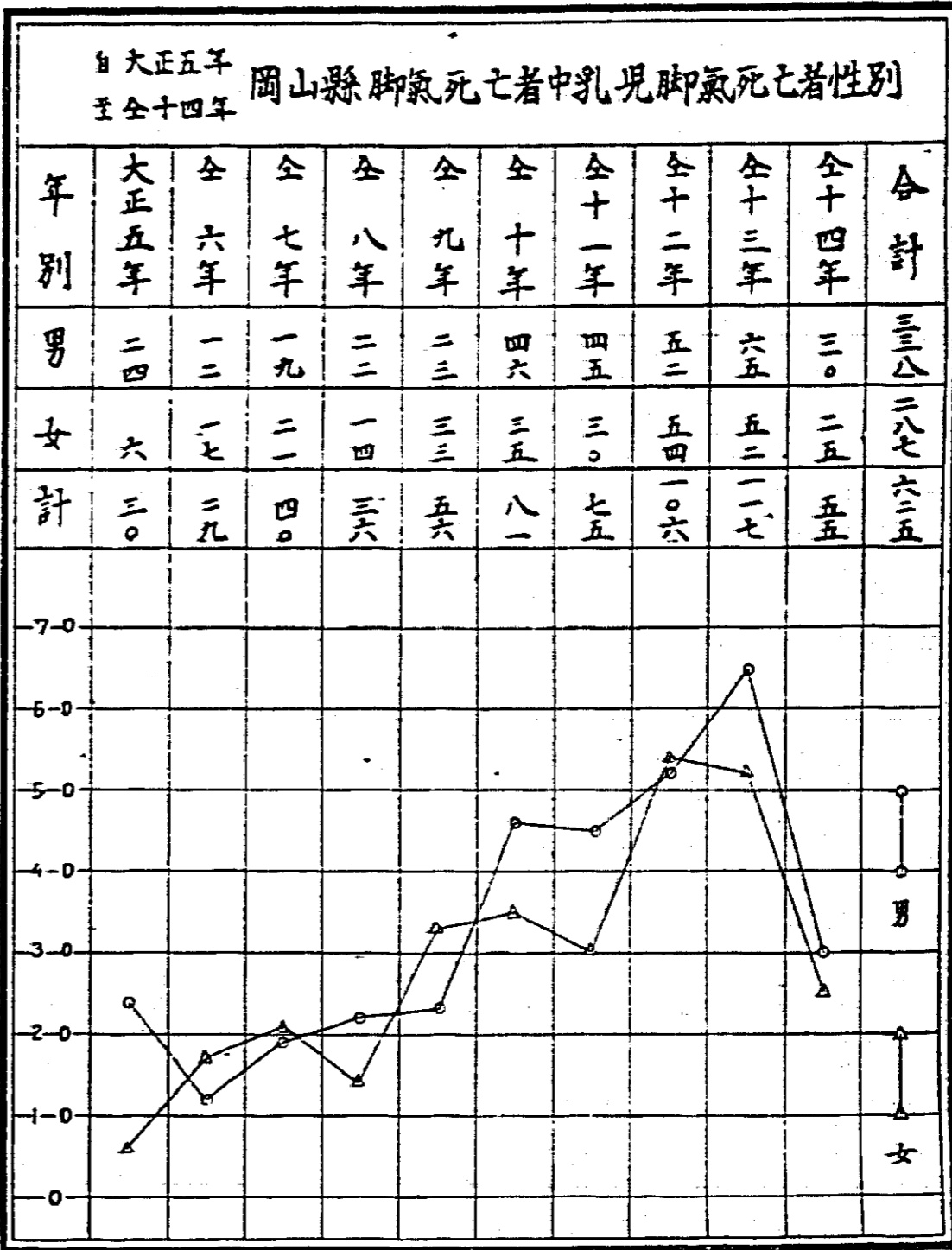
各年著しき差を認めないにも拘はらず、獨り脚氣病に於てのみ前述の通り何倍と謂ふ程兩性間に著しき較差を示すことは見逃すことの出来ぬ事柄であると思はれる。

要するに性別觀察に於て一般病死者に於けるよりも、本病死者に於ては男子の方が女子に比べて甚だしき多數にあること及乳兒脚氣に在りては兩性間の差が青年期程甚しくないと云ふ點が特に注目すべきである。

備考 十二年八不台は男女不詳あり

年次	同							大正六年	全
	十二年	十一年	十年	九年	八年	七年	六年		
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
	下	下	下	下	下	下	下	下	下
縣	全	全	全	全	全	全	全	全	全
	下	下	下	下	下	下	下	下	下
總數	九,〇〇〇,八八八	一,二〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇
	三〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
男	四,七〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
	一〇〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇
女	四,三〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
	九〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇
總死亡數	一三三,六六六	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
	一,八五八	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
對一般病死亡%	一〇・三	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七
	九・〇	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
對氣病死亡%	八五・三	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七
	六六・三	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七
對氣病死亡數	四七,三三六	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	五八三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
對氣病死亡%	三三・九	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七
	三三・七	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一

脚氣病死亡者調査表

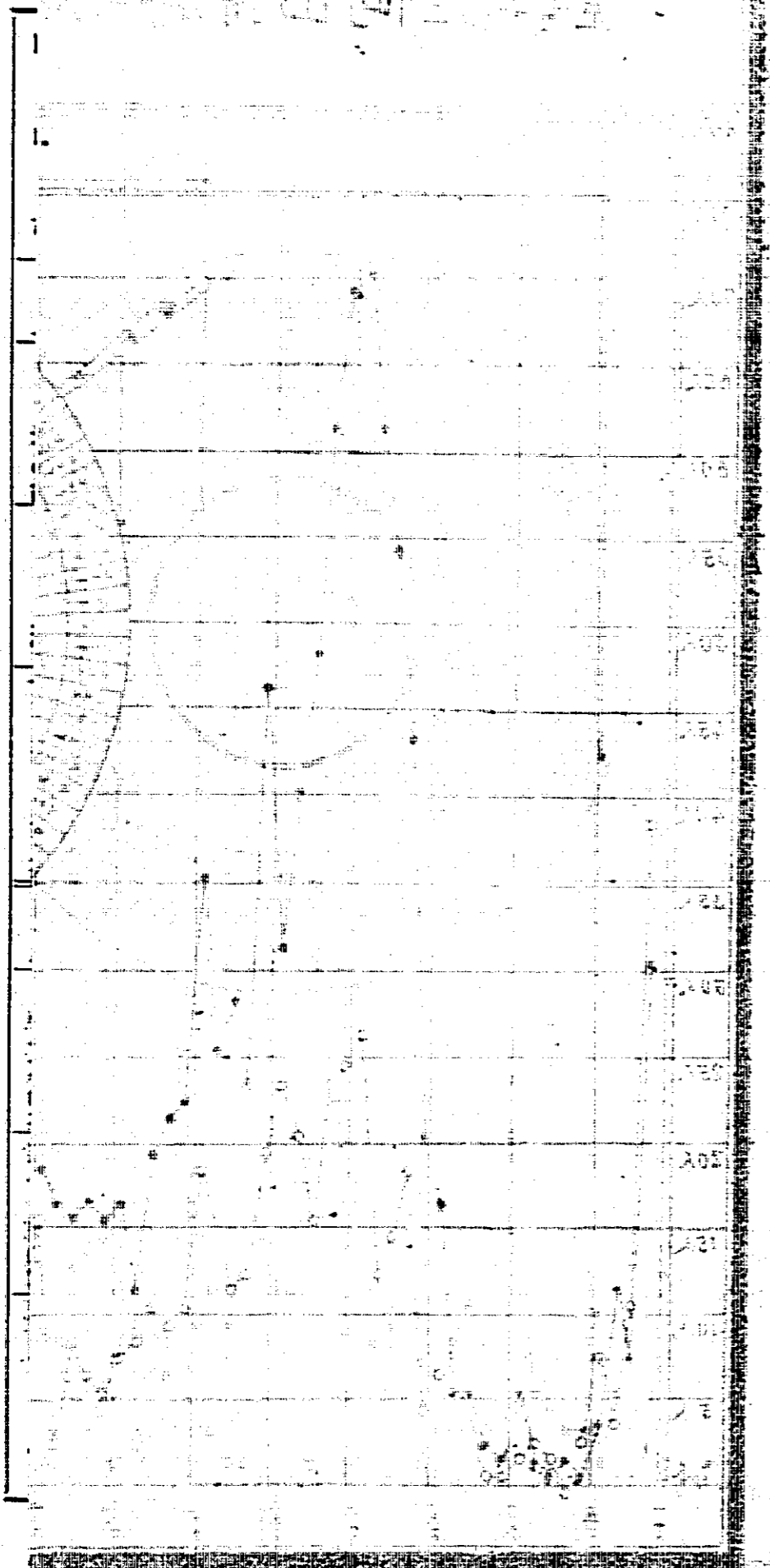


四、年齢別觀察

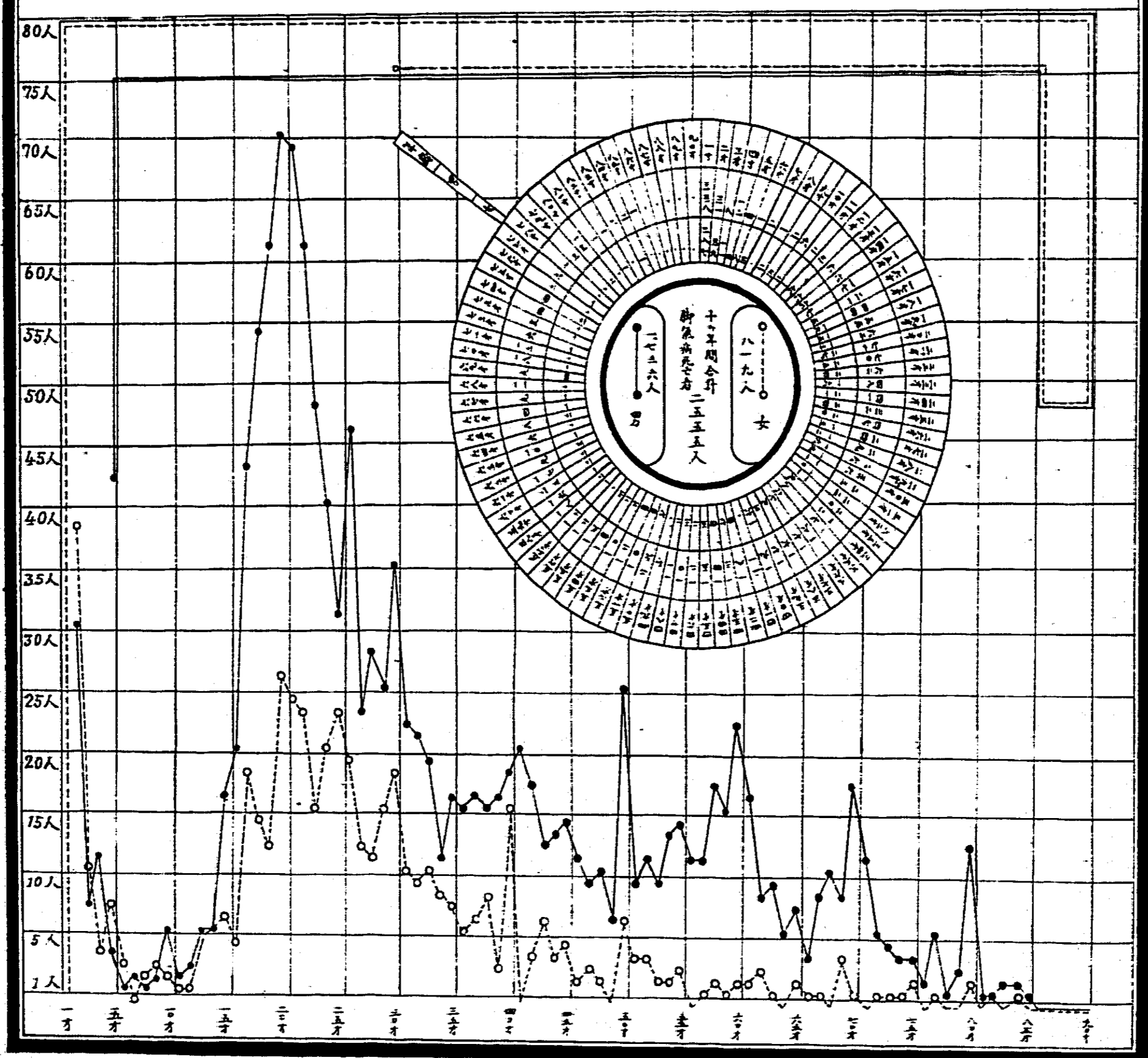
同じく大正五年より同十四年に至る十ヶ年間總脚氣病死者に付き年齢別の方面から觀察すると、次表に之れを示す通りで生後一歳以内の数が六二五人で脚氣病總死亡數に對し實に二四・四六%の高率を示すことが分る、之れは主として乳兒脚氣であることは勿論であるが乳兒脚氣に於ては其の疾病の本來の性質上轉歸の良好ならざるものが多いことも亦其の比率を高むる一因たることは疑を容るゝの餘地がないことゝ思料される、次でそれが二歳三歳と漸次に、然し乍ら二歳よりは三歳に於て即ち離乳期後の狀を示して激減の度を以て其の死亡數を漸減するのを見る。

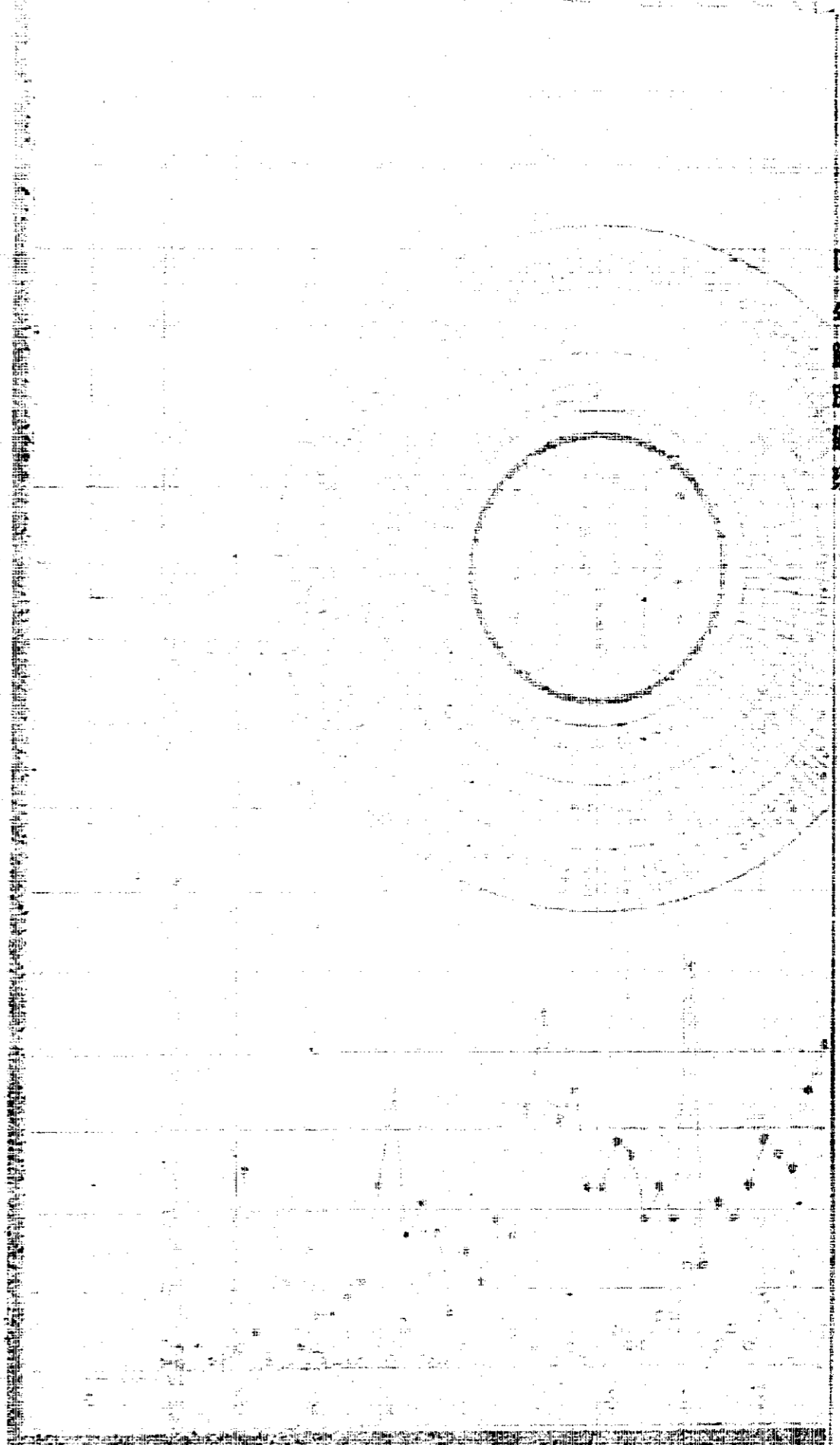
尙この乳兒時代には兩性間の區別を殆んど認むることが出來ぬやうな状態で消長を示してゐることは既述の通りである。

斯くの如くで當分少年時代には其の死亡數も甚だ少數で經過するが、十五歳位から急に其の數を増し従つて男子の方が著しき多數を以て較差を示して來ることが明らかとなる、そして段々年齢の進むと共に其の數を増し二十歳前後の青年期に於て最高數を示し、再び階段狀に漸減の狀を現はすが其の中途に於て二十五歳前後、三十歳前後に於ては未だ決して樂觀を許さぬ狀を呈し四十歳以上に於ては全く著しき減退を示すことを見る。



自大正五年至同十四年 岡山縣脚氣病死亡者性別年齡別實數





五、地方別觀察

本縣地勢の大體は既述の通りであつて縣の北部と南部とを比較すると全く縣を異にした位の感があるばかりでなく、其の北部は一帶に山岳重疊とし南部は之れに反して全く平坦なる沃野連なり海に接し所謂瀬戸内海の風光明媚なる沿海地方である。

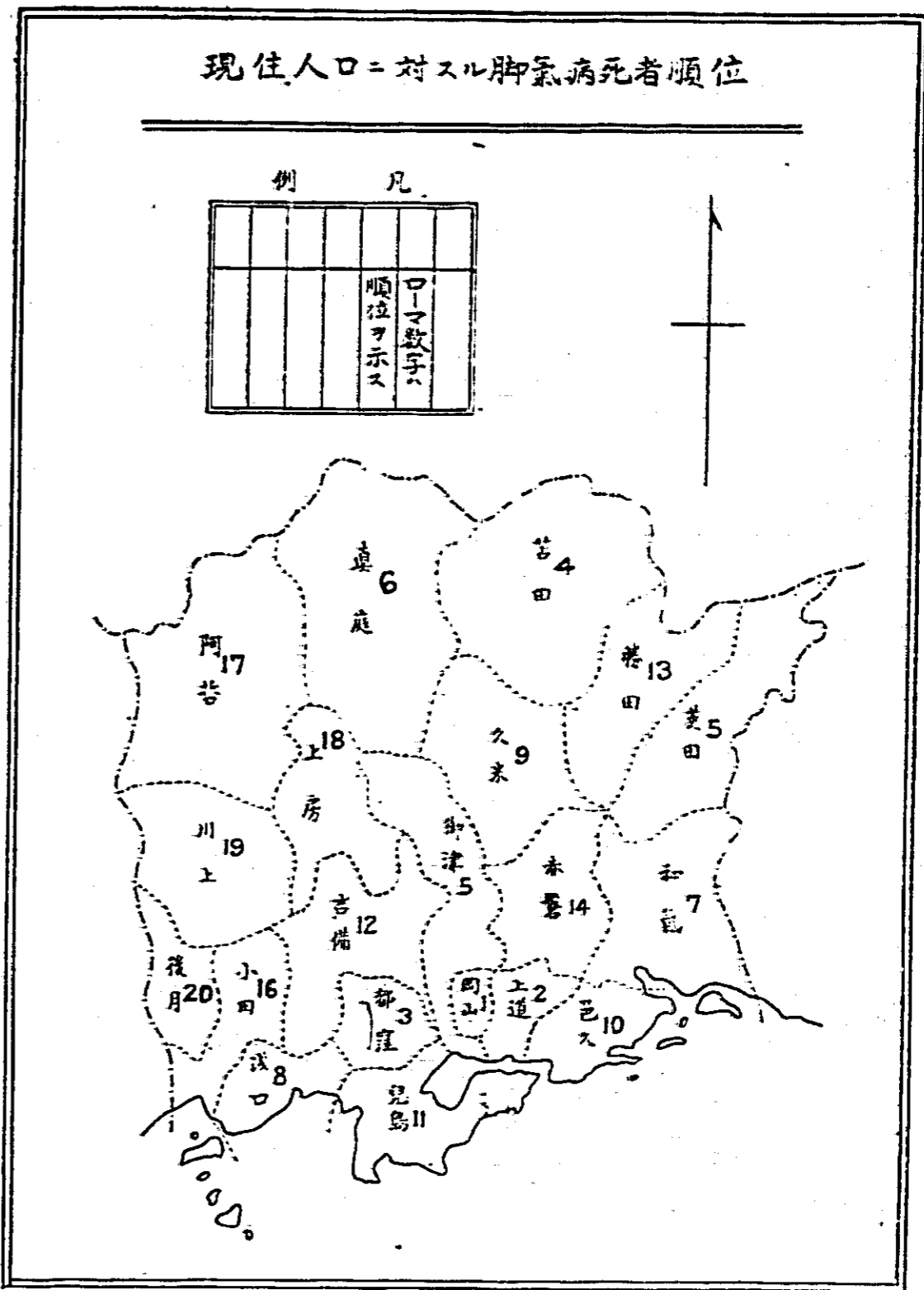
そしてこの北部地方と南部地方との間に特別な數字上の差異を示す關係は、別表の通りであつて其の一般病死者對本病死者の對比順位表を見ると、特に山岳部と沿海部との間に著るしき差異を認むる點がないが、然し乍ら其の縣の南部に於てはその中間部、北部に比べて一般に發生順位の高い地方多く即ち岡山市、上道郡、都窪郡、御津郡の如き特に注目し得る位置を占めてゐることが分る。

一面、現在人口に對する比率を見るに略々之れと相似た型を示してゐるのを見る。
 一、そして之れ等の配置は單なる地勢的要約に依るものと認むることは困難であつて必ずや、其の地勢的事情に因る其他の幾多の要約の支配を受くるものと考へることが適當であると思ふ、例へば南部地方と北部地方との間に於ける生活狀態、氣象學的差異等の方面から觀察を進めるのが適當であると思ふ。
 以下地方別にこの方面の關係に付て考察を加へて見れば次の通りである。

自大正五年
至大正十四年
岡山縣郡市別脚氣病死亡者調査表

郡市	一般死亡者ニ對スル脚氣病死亡者			現住人口ニ對スル脚氣病死亡者		
	順位	死亡者	千者	順位	現住人口	千者
岡山市	一	三、〇二	三、〇六	一	一、二三、四三	五、〇

現住人口ニ対スル脚氣病死者順位



イ、地方別氣温に關する觀察

本縣内氣温の總覽は既述の通りで過去十ヶ年間毎年平均氣温は一三、一度乃至一六、八度の間に在つて、全國氣温配置の稍中間に位する極めて中和なる地方ではあるが、其の縣内に於て地方別的に之を觀察し又四季の關係より見ると、各般の事情の異なる通り差異を示すことが分る、即ち別表に示す通り縣下の地勢上觀察點を異にする九地方に付、大正五年より同十四年に至る十ヶ年間毎月氣温平均配置の状を見るに、其の最低温度を示す阿哲郡(新見地方)に於ける示點は一三、一度であつて最高を示すのは和氣地方の(海岸地方)一六、八度である、そして各地方はこの兩極の中間各示度の間に位してゐる。

之を前述の一般地方別觀察に對照すると、阿哲地方は其の患死者の發生率極めて少なき第十七位乃至第十九位に位し、其の最も高率を示す海岸地方一帯は第一位、第二位、第三位、第五位、第六位、第八位、第九位等に在つて、即ち之れ文々に依つて見れば脚氣病患死者の多發するのは氣温配置の高き地方に多く、低き地方に少きやうに見らるゝ點がないでもない、殊に其の低温の方に於て著しき點を見出すやうである即ち氣温の最低なる阿哲地方の如きは實に其の第十七位第十九位に在る如きは之を示すものと謂ふことが出来る、然るに一面に於ては全く之と異なりたる示數を現はすことも亦見逃がすことが出来ぬ、即ち高位第五位に在る高梁地方の如きは其の患死者數第十八位を來し最低地方に極めて近接し、又之れに反して津山地方、勝山地方の如きは低温の方より見て第二位、第三位にあるに拘はらず、本病患死者數は第四位又は第七位に在るが如きは單に氣温の高低とのみ相一致せざることを示すものと思はれる。

であるから此の關係に付ては單に地方別氣温の配置と其の患死者の發生率とばかりの關係が絶對的に並行を保つものとは考へられぬ、而しながら前述の通りで一部には密接の關係は保たれつゝあることは疑ひなく、之等は寧ろ他の要約の高低に依り或は一致し或は其の一致が破らるゝの狀にあるのではないかと思はれる。

で患死者發生の消長を決することは出来ぬ。

- 一、降水量に付ては夫れ自身直接大なる關係なきやうである。
- 一、気温、温度、降水量の三者が互ひに一部つゞの關係の狀態に於て其の患死者の發生影響を保つてゐるものと思はれる點がある。
- 一、土地の高低に付きこれ自身ばかりでは本病患死者の發生に關係なきが如し。
- 一、人口密度に付これ自身が直接本病患死者の發生を支配するとも思はれぬが、間接的にもせよ何等かの關係の保たるるものであらうと思はれる。

六、季節別觀察

過去十ヶ年間本縣気温の示度は一三、一一一六、八の間に在ることは既述の通りであるが、之を季節的に見れば又別表に示す通りであつて縣下の種々なる事情の異つた九地方に付其の十ヶ年間毎月平均気温を見ると其の最低を示す月は各地方を通じて一月で、其の最高を示す月は八月であることが分る。

そして最低地方即ち阿哲地方に於ける最低の月なる一月平均は一、二を示し最高地方即ち和氣地方附近に於ける最高月なる八月平均は二九、六を示すのみを見る。

又月別降水量の關係を觀察すると別表に示す通り六月及九月に於て最も多く一月に於て最も少いことが判る。即ちこの降水量と氣候とに依つて之を季節的に見れば、一月に於ては降水量最も少く、気温最も低く、六月九月に於て降水量最も多く八月に於て気温の最も高きことを示すのを見る。

今之れを既述の月別本病患死者觀察表と對照すると、本病患死者の月別的消長は一月、二月、三月に於て最も少く、八月、九月、十月に於て最も多きことを示す。

そして今述べた季節的關係と稍相一致することを見る事が出来る、即ち降水量多き、気温高き九月、気温高き八月に於て死者數多く、気温低き降水量少き冬季に於て本病患死者の少きことを示すのを認めることが出来る、然し乍らこれは謂ふまでもなく一般的觀察であつて一地方的に仔細に見れば單なる季節的關係のみの支配を受け得ぬことは勿論であつて、例へば気温の方で別表に示す通り其の最高を示す八月中で地方的に最高を示す岡山和氣地方を本病患死者發生地方別觀察表と相對照すると、岡山地方から和氣地方に亘り其の第一位又は第六位を示し、次に淺口地方、兒島郡地方が高溫を示し患死者地方別表の第三位、第八位、第九位に相當するが、此間に介在する所の第四位第七位の苦田、眞庭の二地方の如きは気温配置の關係から見れば第七位、第八位に在つて寧ろ、淺口地方、兒島郡地方に比べれば気温低きに拘らず患死者數は却て多數であるが如き之れである。

十ヶ年月別平均気温 (自大正五年 至大正十四年)

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年平均
岡山市	四・〇	五・四	八・三	一五・〇	一九・四	二三・三	二七・九	二九・二	二五・三	一九・〇	一四・四	六・四	一六・四
和氣郡	六・七	五・九	八・七	一五・〇	二〇・〇	二四・二	二七・七	二九・六	二五・六	一九・一	一三・五	七・三	一六・八
兒島郡	五・一	五・九	八・二	一三・九	一八・〇	二三・〇	二六・七	二八・五	二三・三	一九・四	一三・三	七・七	一六・二
淺口郡	四・六	五・九	八・八	一五・一	一九・八	二三・六	二六・〇	二八・九	二三・〇	一八・五	一二・〇	七・一	一六・五
小田郡	四・八	五・六	七・九	一三・八	一八・三	二三・二	二六・六	二七・七	二三・八	一七・八	一一・九	七・五	一五・七
上房郡	二・九	四・五	七・四	一四・三	一九・〇	二三・一	二七・七	二八・六	二四・五	一七・一	一〇・六	五・〇	一五・八
阿哲郡	一・三	二・九	五・四	一一・二	一五・八	二〇・六	二三・三	二五・八	二二・四	一四・九	八・九	三・七	一三・九
眞庭郡	二・二	三・四	六・三	一二・〇	一七・二	二一・六	二六・一	二六・九	二三・〇	一六・三	九・七	四・四	一四・二